



# 隨想

大日本鑛業株式會社  
社長 松浦 弘

私は去る十月下旬秋田宮城の縣境近く國有林中に在る探鑛山を訪ねた。秋空一碧に映ずる周邊の山々は常緑樹を僅か點々残して潤葉樹の鮮かな紅葉で蔽われ、文字通り錦を懸けた景觀である。林道に沿う溪流は靜かに澗んで藍色或は岩を嚙んで白雪と碎け、恠浚たる水の響は反つて靜寂を深め、都塵を一掃するの思いに暫し讚歎したのである。

林道を外れて更に山峽を登ること二十町余、岩頭上に雜木を組合せ杉皮で屋根を葺き板圍した十坪ばかりの山小屋を根城として、老若十數人の男達が山嶺の一角に取組んで職場に到達する。電燈もない勿論ラジオもない、郵便も來ない。鹽魚と山菜を精々の御馳走として毎日黙々と鑛石の開探にいそしんでいる。周邊の絶景風色を賞美するなど贅澤な暇はない。やがて襲い來る寒々と雪にもめげぬ冬籠りの用意も營みつつ唯「直利」を目ざして困苦精進する次代大鑛山播籃の姿が見られるのである。

「鑛山會社は此頃景氣がよいでしょう」という質問をよくうける。成程景氣のよい鑛山もあるだろうが、併し、その鑛山も一朝一夕に出現するものでない。世人は景色の美しさは歎賞するが、縁下の力持は全く顧みない。前項の如き探鑛山が常に次から次へと人知れぬ辛苦を重ねて千に三つの鑛山が大成するのである。露頭を探見發掘して小山を育て上げて行くものの經濟的又精神上的の犠牲は少々の所謂「好景氣」で報われるものでない。そこに鑛業の永効性と特異性があるのである。

鑛業の發展には生産技術の改善、經營の合理化が必要であるが、將來の國民經濟隆盛の基盤培養の新見地に立つて在來の鑛業政策から置忘れられている小鑛山コヤマ或は新山アツタマの探掘にも何等かの報奨制度が望ましい。

仄聞する處に依れば、明年度よりは新鑛床の探査に重點を置いて助成金を考慮されるものとである。誠に時宜を得た一策と思うが更に都道府縣當局が自らの縣政面からも鑛業の重要性を再認識せられ、近頃稼行鑛山より増徴となつた地方稅收入を大中に割いて管下鑛山地帯の地質調査は勿論、物理及化學的探鑛を最も迅速積極的に實施して、小資本と技術の貧困に焦慮する小鑛山の育成を助長せられ、深山幽谷に埋る地實にも陽光燦めく日の到來一刻も早からんことを念願する次第である。

## 日本鑛業協會誌 (第三卷第十一號)

### 十二月號目次

(卷頭言)

☆隨想……………松浦 弘…三

☆米國を中心とした朝鮮動亂後の

銅況の展望……………古河鑛業調査課…四

☆米國鑛産税の

減耗控除とは何か?……………三

☆改正鑛業法案公聽會

(スポット) 合理化資金……………二〇

☆火焰穿孔の發達……………三三

▽あめりか通信(一)……………平塚 保明…三六

▽「鑛山の科學管理」……………三七

▽二五年度「日本鑛業協會賞」發表……………三三

▽ニュース……………三〇

▽資 料……………三〇

▽第三卷(二五年度)總索引……………三六